<table>
<thead>
<tr>
<th>Title</th>
<th>宮内庁書陵部蔵「金玉双義」解題併翻刻. 上</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Sub Title</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Author</td>
<td>石神, 秀晃(Ishigami, Hideaki)</td>
</tr>
<tr>
<td>Publisher</td>
<td>慶應義塾大学国文学研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>Publication year</td>
<td>1991</td>
</tr>
<tr>
<td>Abstract</td>
<td>資料紹介</td>
</tr>
<tr>
<td>Genre</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
</tbody>
</table>
宮内庁書陵部蔵「金玉双義」翻刻併解題
上

石神秀晃

安政二年（鶴司政通）自筆奥書
日野（鳥丸）光政所持の

金玉双義（外題）

当該書誌の現状は別稿にも記すところである。本稿には必要

事項のみ便宜略記しておく。

一 翻刻併例

二 略解題

三「金玉双義」（併題）
......
一条能基が、その何番目かの孫だとする。弘安元年（一二七八）、
一条能基の伝を考えるためには、弘安の変から、一条能基を
調査することが必要である。また、一条能基の伝が実際に存在したか
否か、また、その伝がどのように伝わってきているか、これらを
考えると、弘安の変から一条能基の伝が実際に存在したか否か、その伝
がどのように伝わってきているか、これらを考慮に入れる必要があ
る。
日本では、一例を挙げると以下の通りです。

1. 田中カード
2. たなかカード
3. たなかカード

日本では、多くのカードが販売されています。